

小池 宏明 牧師

良きサマリア人のたとえば、直接的には、律法の専門家に語られたが、主イエスは、このたとえ話を通して、私たち一人ひとりにも語り掛けて下さった。私たちが、愛と憐れみに溢れた隣人になるために三つのことを確認したい。

**\* 苦しみ困っている人の隣人に「なる」**

第一に、私の隣り人は主なる神様が出会わせて下さるということである。「隣人」というと私の家族や親戚や友達や、職場の同僚や学校の同級生や近所の人や、いろいろと考えることもできる。しかし、大切なことは、私が誰かを隣人として選ぶのではなく、主なる神様が私に出会わせて下さる一人ひとりが、私が愛情を持って仕える隣人になる、という自覚だ。私たちは、主なる神様の導きによって出会わせて頂いている一人ひとりの隣人に「なる」ように、愛と憐れみを持って仕えるよう、努めて生きたい。

**\* 自分自身の罪深さに気付く**

第二に、自分自身の罪深さに絶望することである。イエス様に質問したある律法の専門家は、イエス様から「あなたも行って同じようにしなさい」と勧められた。毛嫌いしているサマリア人が隣人とは、彼にとっては大きなショックだっただろう。彼はその後どうしたのか、続きは書かれていない。これは、後代に生きる私たちへのイエス様からの勧めであろう。そして、歴史の教会は困窮している方々や社会的な弱者を助ける活動に取り組んで来た。しかし、本気で実践しようとすると、自分の限界、愛のない罪深さを思い知らされるのだ。イエス様のご命令は、聖書を知識として知っているだけではなく、自分の足で行って「行うこと」の大切さを示している。ところが、「行い」によっては永遠のいのちを受け取ることはできない。私たちは、十字架と復活を通して勝利したキリストの元に立ち返らなければならない。自分の罪を認めて、悔い改めて、赦された私たちは、その喜びと感謝から、足りない者ではあるけれども、少しでも良きサマリア人のように深い愛情を示す者へと変えられていくのだ。

**\* 罪咎に苦しむ者の隣人になって下さるキリスト**

第三に、自分の罪深さに気付いた私たちの隣人になって下さったお方がイエス・キリストであることを覚えたい。自分自身の罪深さに打ちのめされ、絶望した私たちは、強盗に襲われてひん死状態で倒れている旅人のようだ。そんな、私たちのために、あなたのために、イエス・キリストは十字架上で身代わりとなって苦しまれた。イエス様こそ、あなたの深い苦しみや悲しみの傷を、このサマリア人のように、優しく介抱して下さるお方なのだ。